



今年度は附属小の
「創立150周年」です。
ワクワクでいっぱい年にしていきます！

令和6年度 附属小学校だより

スマイルふぞく



第7号 令和6年12月6日（金） 校長 古野 祐一

150周年お仕事パークが大盛況！

11月28日（木）に、実行委員会と育友会によって開催された「祝150周年！お仕事体験パーク！みんな何になりたい？」。19の仕事ブースのクオリティの高さに感激するとともに、子供たちにめったに味わえない機会をプレゼントしようという保護者の皆様の熱量に圧倒されました。川口実行委員長、一瀬副委員長の企画のもと、長野会長をはじめとする育友会本部・評議員の皆様、ボランティアの方々による準備、協力のおかげです。本当にありがとうございました。体験終了後、4年1組で見られた子供たちの様子を担任から聞きましたので紹介します。



放送室で行われたアナウンス体験！

【体験後に教室に戻ってきた子供たちの会話】

「歯医者さんの体験、行った？」
「行ったよ。歯を削ったよ。面白かった～」
「将来、医者になりたいと思ってたけど、歯医者もいいなと思った！」

【翌日の中休み、裁判ごっこをしている様子】

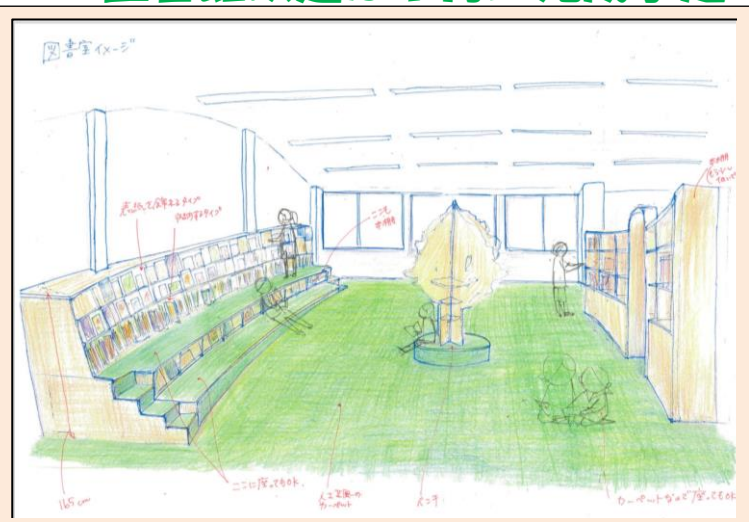
「異議あり！」
「その時、あなたは被告人の顔を見ましたか？・・・以上です！」



図書館で行われた新聞づくり体験！

子供たちの「**やってみたい、なってみたい、目指したい！**」に日を灯してくださった大きな一日でした。校歌にある、私が大好きなフレーズの「**ああ あこがれは限りなく 無窮の空を 天かける 天かける！**」が描くように、北斗の子らの未来を照らし、後押しするのは、やはり、多くの大人たちが見せる生き方に他ならないと、改めて学校、家庭が力を合わせる意義を再確認しました。150周年の様々な取組をきっかけに、スマイル附属がますます輝いています！

図書館改造は1月に完成予定！



模まいよいよ具体的計画を立ててくれています！
図書館の改装に向けて、6年生が



家庭科室で行われたお菓子作り体験！



体育館で行われた車イス体験！

※裏面に続きます！

子どものちから

来年度導入の冬用体育着です。体育時だけでなく、遠足などを含めた幅広い活用を考えています。

以前は、真冬でも半袖が当たり前で、極寒の体育館で震えながら体育の授業をしていました。本校で勤務した12年間で、ルールや子どもへの指導がいくつも変わってきました。



- ・冬の防寒着の着用
- ・水筒の飲み方
- ・教科書置き帰り許可
- ・遠足のお菓子交換の禁止
- ・児童からの学級へのお土産廃止
- ・ハサミや彫刻刀の管理

すべて、子どもの安心安全のために変えてきたものです。

変えていくこと

ルールや仕組みは、その時、その場所で必要な理由があります。当時の本校のルールも、目指す子どもの姿にとって必要なものでした。時代が変わり、人が変われば必ずルールや仕組みが変わります。

松尾主幹が学校だよりで紹介している教育研究や教育実習の変革に加え、子どもの安心安全を守る「初期対応チーム」、カリキュラムの改善を図る「カリマネ推進チーム」の発足。職員育成を協議する「HIM（北斗イノベーションミーティング）」、広報戦略係による大学と連携した情報発信など新たな取組も進んでいます。思考停止することなく、全職員で知恵を出し合い改善していく風土があるのも、スマイル附属の強味です。

自分たちの学校は自分たちでつくる子どもたちを、自分たちの学校に責任と誇りをもつ教職員が支えています。

教頭 橋田 晶拓

教えから学びへ²

未来の教育を創る

本校の使命の一つ、教育実習。本校では、10月から11月にかけて、本格的に実習が始まる前年度の学生に対し、「事前指導」として、学級経営や保健指導、授業作り等について学ぶ機会を設けています。この写真は、11月に行われた講義の様子です。国語科 村崎教諭の授業を公開し、その授業をもとに、板山教諭による授業作りの指導を行いました。



これまでの事前指導は、講義型…指導法や事例の伝達が中心でした。しかし、「教えから学びへ」の視点で、学生の主体性を尊重した研修への転換を図りました。グループで意見交換を行いながら、授業の計画を立てたり、子どもの反応を考えたりするような演習をメインとした形態へと変化させたのです。村崎教諭や板山教諭は、学生の求めに応じて質問に答えたり、意見を価値付けたりするなどして学びを促し、学生の当事者意識を高めていました。

未来の教育を担う本講義を受講した学生が、子ども主語にした学校教育を実現していくことが楽しみです。

主幹教諭 松尾 勇哉

身近な幸せ

願いを形にする学校へ

11月29日(金)に北斗祭が開催されました。この北斗祭、「4年ぶりの復活！」とチラシには記されてあったのですが、実は、昨年度復活を果たしていたのです。「私たちが1年生の時まであった北斗祭を復活させたい！」と、今の中学一年生が、復活という願いを実現させました。規模は縮小されたものの、また新しい「北斗祭」を生み出してくれました。

そして、今年度の実行委員であるこの二人。実

は、昨年度からこの「北斗祭復活プロジェクト」に参加していたのです。復活までの道筋を先輩と共有し、その思いとノウハウ



を受け継ぎ、さらに進化した形で、今回の北斗祭の開催までこぎつけました。

「動き出してみればできる」「自分たちでもこんなことができるんだ」という思いが、子どもたちにも定着し始め、様々なプロジェクトが更に熱を帯びています。「やってもいいんだ」という安心感と、「やってみたい」という期待感の中で、様々なことに挑戦しようとする子どもたちのキラキラした瞳に出会える機会が増えたことに、幸せを感じています。

教務主任 野口 拓也